

5

特集 今、在宅に求められるストーマケア

病院と在宅をつなぐ 窓口ストーマ外来の役割

柴崎真澄

サンセイ医療機器株式会社 オストミーグループ WOCアドバイザー

Point

- ▶ ストーマ保有者のフォロー体制を理解する
- ▶ 地域連携からみたストーマ外来の体制を確立する

はじめに

ストーマ外来とは、ストーマ保有者が普通の生活（ストーマ造設前の生活）をめざし、それを維持するために、個別に専門的なケアを維持する外来です¹⁾。本来、長い経過のなかで直面する問題を「いつでも相談できる窓口」としての役割を果たすといわれてきました。しかし、在宅の医療者からは非常に相談しにくい状況にあるといわれています。

その理由はストーマ外来は診療報酬を算定するための条件にあります。①主治医の指示の基に行うこと、②プライバシーの保護のために個室であること、③1人のケア時間が30分以上であること、

④ケアの内容を診療カルテ・ストーマ記録用紙に記載すること、が必要であるためです。

ストーマ外来を開設している施設の多くは、このような条件から予約制になっており、皮膚・排泄ケア認定看護師（以下、WOCナース）が常時外来にいる施設は多くありません。また、ストーマ造設から長期間が経過したストーマ保有者は受診を中断していることもあり、相談する場所を知らないこともあります。

今回、ストーマ外来の現状とその問題点を踏まえて、地域医療連携を含む超高齢社会に向けたストーマ外来のあるべき姿を検討します。

ストーマ外来に WOC ナースがいない

最近では WOC ナースが複数勤務している病院が多くなっていますが、1人は専従の褥瘡管理者として勤務し、他はスタッフとして勤務しながら、予約が入っているときはストーマ外来にいる、という体制が多いと思います。WOC ナース以外のスタッフにも一般的なストーマケアはできますが、管理困難のケースでは対応が難しく、相談者に的確なアドバイスができない場合があります。しかし、WOC ナースが必ずしも勤務しているとはかぎらないため、ストーマ外来の担当者が不在でも、ストーマに関する相談窓口となれる相談者を決めておかなければなりません。



したりすることで、ストーマケアにかかわる看護師とともに研鑽していけば、担当者が不在でも対応可能になると思います。さらに、可能なかぎりストーマケアを行うときには同席し、実施したケアの根拠を説明していきましょう。それによって同席した看護師は次のケアに活かすことができます。

患者への対応

相談に来た患者には、担当者が不在であることと相談内容と対応について担当者へ報告し、後日連絡することを伝えます。

どのように対処する？

相談を受けることができる看護師の育成

外来看護師や病棟看護師がストーマリハビリテーション講習会を受講したり、院内研修会を開催

電話で相談したいが繋がらない、連絡が取りづらい、相談しても十分な回答が得られないとき

相談する側はケアに難渋している現状を相談し、すぐにアドバイスがほしいと望んでいる一方、相談を受ける側は直接ケアや指導中ですぐに電話に出られないという場合が多々あります。

どのように対処する？

受ける側は折り返し連絡するために連絡先を確認する、連絡できる時間の目安を伝えるという工夫が必要です。そして、比較

